

トピックス

郵便における鉄道利用について

富永 紀子

日本における鉄道の創業は1872（明治5）年。明治5年9月12日（新暦の1872年10月14日）には、盛大な開業式が催された。けれど、鉄道の建設事業はもろ手を挙げて賛成されていたわけではない。明治政府によって鉄道の建設は進められていたものの、官民ともに反対の声も大きかったのである。

政府内部の反対は、弾正台（司法省）と兵部省（陸海軍）であった。いずれ鉄道の建設は必要だが、今は軍事力を増強すべき、時期尚早だという意見である。鉄道建設に積極的だったのは大隈重信と伊藤博文で、西郷隆盛や大久保利通は反対派であった。

兵部省は用地問題を巡っても抵抗した。新橋駅（汐留）の設置場所が、海軍基地の拡大予定地だったのである。兵部省は拡大予定地を譲り受けた旨を太政官に請願したが、新橋駅の工事が開始された。兵部省は抗議と駅予定地の変更を申し入れたが回答はなく、工事は進められたのである。

西郷・大久保の旧薩摩藩や兵部省の反対は、線路の敷設工事に影響した。当初、鉄道は旧薩摩藩や兵部省が管轄していた海沿いの土地を通る予定だったが、用地提供を拒まれたため、大隈は海中を埋め立て、その上に線路を敷設した。高輪沖の海上を蒸気機関車が走る、現在であれば絶景ポイントとしてSNSで話題になるような光景は鉄道反対派によって生まれたのである。

反対派の大久保が意見を覆したのは開業前に試乗したことによる。「鉄道の発展なくしては日本の繁栄はあり得ない」とその日の日記に残されている。

「日本郵便の父」である前島密も鉄道に関わっているのである。明治政府が鉄道の敷設計画を決定した1869年、前島は大隈から鉄道建設のための予算案を作成するように命じられたので、それが「鉄道臆測」という土木・建築費や収入支出をとりまとめたものである。この結果、東京・横浜間の鉄道建設は太政官で決定した。

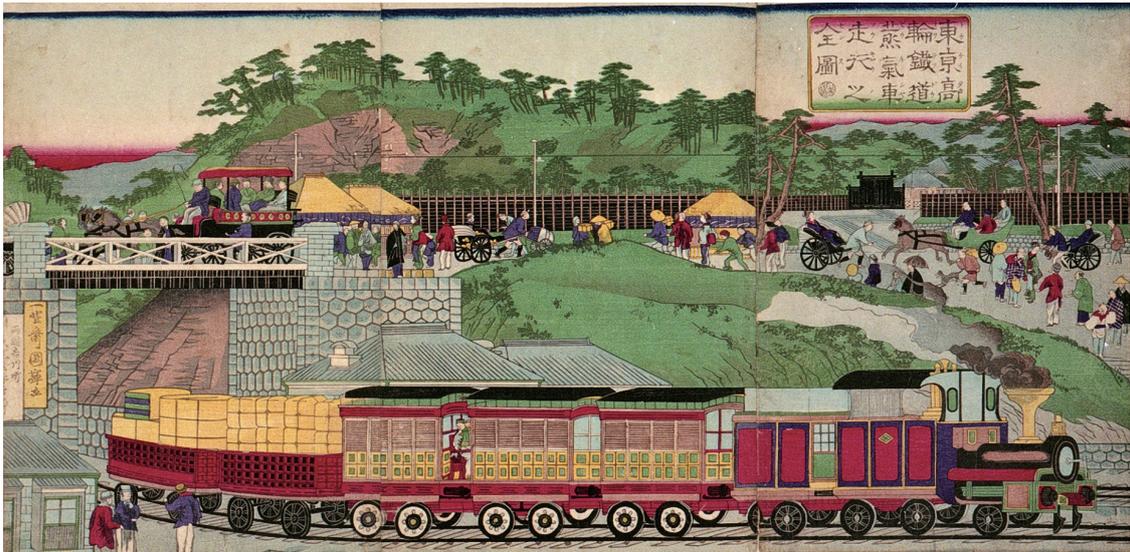
また、前島は速さが求められる郵便に鉄道を利用することを鉄道頭の井上勝に申し出た。

そして仮営業中の1872年6月（明治5年5月）、早くも鉄道による郵便物の輸送が開始されたのである。鉄道の創業と同じくして、鉄道郵便業務も始まったのである。

鉄道開業後、鉄道による郵便物の輸送は次第に増えていった。その年の10月に駅通寮と鉄道寮との間で交わされた約定では、新橋・横浜間の列車往復9往復のうち、上下各5便が局員の乗務する護送便として使用された。当時は荷物車や車掌室に積み込んで運送していたが、6月13



前島密業績絵画「鉄道敷設の立案」



一曜齋国輝「東京高輪鉄道蒸気車走行之全図」



久保田米遷『郵便現業絵巻』第7図「鉄道郵便車への郵便物積込と車内区分の作業」

日の便で初めて郵便輸送のために護送人が乗務し、1887年には下等客室と郵便室を合わせた郵便合造車が登場した。

鉄道は新橋・横浜間の開通を手始めに大阪・神戸間、京都・大津間と開通、1889年7月には東海道線の新橋・神戸間が全線開通した。それに伴い、郵便物の輸送距離も延び、郵便物が増加したため、1889年には“動く郵便局”として車内で区分作業を行う専用の郵便車が登場したのである。

鉄道郵便局は、窓口を持たない郵便局で、1903年4月、東京、大阪など全国11か所に設けられた。列車内における郵便物の区分事務の取り扱いが開始された当初は、鉄道郵便の業務量は少なかったものの、主要鉄道路線の開通によって事務量が増加したことから誕生したのである。

8か月後、日露戦争の激化による行政整理のため廃止されたが、戦後の好景気と国家発展の影響を受け、鉄道線路が目ざましい発展を遂げるのに伴い鉄道郵便も増加し、鉄道郵便局の再建を促したのである。

鉄道郵便輸送は、鉄道開業当時から郵便輸送の中心的な役割を果たしてきた。しかし、高速道路や空港の整備に伴って航空便が多くなり、地域内輸送やローカル鉄道便が自動車での輸送



郵便車両を牽引して走る機関車（1907年）

に切り換えられたことにより、鉄道郵便局の役割は大きく変化していった。

そこには、国鉄の経営再建計画やダイヤ改正も関係している。特に1982年11月と1984年2月に実施されたダイヤ改正により、一般貨物列車や荷貨物取扱駅の大幅削減がなされた。

郵便事業も宅配業者の急成長や電気通信メディアの発展により、事業改革の必要性に迫られていた。そこで、これを機に郵政省独自の立場から郵便輸送システムを見直す抜本的な改革が行われ、鉄道主体から自動車主体に転換したのである。

1985年3月から鉄道郵便局本局の廃止を含む鉄道郵便輸送の縮小が行われ、1986年10月1日、鉄道郵便局を廃止するとともに、鉄道郵便車による輸送を全て廃止した。

ここに、郵便における鉄道の利用は終焉を迎えたのである。

（とみなが のりこ 郵政博物館学芸員）

【参考文献】

宮崎珍延 『鉄道郵便車変遷史』 1990年

郵政省郵務局 編 『鉄道郵便のあゆみ』 1952年

鉄道郵便研究会 編 『鉄道郵便114年のあゆみ』 ぎょうせい、1987年

東京南鉄道管理局・汐留駅・品川駅・桜木町駅 編 『汐留・品川・桜木町駅百年史』 1973年